

広げようイクボ

子育てや介護と仕事を両立できる職場環境を整え、部下の家庭と仕事の両立を応援するリーダーを増やそうと、鳥取県は官民でつくる女性活躍の推進主体「女星活躍とっ」とり会議」と連携して県内企業に働き掛けを続け、その考

え方や重要性は県内の経営者らに広がりを見せている。優良事業所の取り組みを知り、従業員のワーク・ライフ・バランスのあり方や経営者側のリスク管理を考えるきっかけにしたい。

日ごろから従業員のニーズが把握できる環境を整え、仕事と家庭が両立しやすい勤務体系の構築を図るなど、「働きやすさ」を進めている。

同社はプロフェッショナルではなく、オールラウンドプレーヤーの地域密着サービススタッフを目指しており、何かあった時、どの業務でも対応できる従業員の育成を進める。また従業員の働き方に柔軟に対応している、特に高齢、主婦、子育て中のパート・アルバイトについては、それぞれが働きやすい職種、時間帯を整備。今後、定年の引き上げ、継続雇用延長や介護に関する従業員ニーズの調査も予定している。

江原剛社長は「仕事を細分化すると実はさまざまな人に働いてもらえる。人手不足と言われているが、や

流通

江原剛社長、倉吉市、従業員数105人



幅広い年代が働ける環境を整え、従業員は日々お客さまの声に耳を傾けている

り方を変えていくことで対応できる」と、従業員の年齢や性別の構成を地域社会の年齢構成などと同じにする。

ることで、今後の従業員の「働きやすさ」にもつながると考える。

また、男性の育児休業取得、フレックスタイム制度の活用も積極的に推進。企画営業部サブマネージャーの南秀樹さんは第3子誕生時に1カ月間、育児休業を取得。「第3子の際は妻の負担などを考えて取得を決めた」と話す。家事のスキルが上がったほか、自分の仕事の仕方についても見直すことができた。以降、ほかの男性社員の取得も続いた。現在はフレックスタイムも活用している。

江原社長は「いろんな業務に対応できることが、将来の従業員の働きやすさにもつながるはず。会社はその環境を整えるのが役目だ」と話している。

従業員へのニーズ把握